

# 「とちぎの子ども育成憲章」の実践

活動名	第34回栃木県少年の主張発表上都賀地区大会		
年月日	平成23年9月2日(金)	場所	鹿沼市立南摩中学校
参加者	生徒・学校職員・保護者・PTA・地域住民	人数	185名

## 関連する憲章の条文

子どもたちとともに 学び 喜び 励ましあい 社会の一員としての自覚を育てます

この大会は、上都賀地区内の中学生の清新かつ建設的な意見を発表する機会を設けて、少年少女たちが日常感じていること、考えていることを表明できる技術を習得するとともに、明日の郷土に生きる若い世代としての誇りと自主性を育てることにより、その健全な成長に資することを目的として開催しています。

次のような手順で発表大会に向け準備をします。

- ① 6月初旬 開催案内通知を学校に送付します。
- ② 7月末 26校代表者の発表原稿が届きます。(応募者総数3,632名)
- ③ 8月中旬 審査員へ発表者の原稿を送付します。

(事前に発表原稿が観点に沿って書かれているかに目を通します。)

発表作文が

- ア 中学生らしい感性で、新鮮な主張があるか。
- イ 新しい情報や視点があるか。
- ウ 個人の体験にとどまらず、一般性・社会性が感じられるか。
- エ 提案や提言を実現・実践する意欲が感じられるか。
- オ 論旨が一貫し、構成がしっかりしているか。

- ④ 9月2日 発表大会当日の審査は次の論調、表現力等の観点に留意し採点します。
  - ア 話しぶりに熱意と迫力があるか。
  - イ 主張の内容が聴衆に共感と感銘を与えているか。
  - ウ 説得力のある話し方であるか。
  - エ 落ち着いて、話していたか。

## ◆大会当日の様子

発表者は、自分の主張を原稿を見ずに発表できました。発表内容・発表表現等が優秀であり、発表態度も立派でした。

また、会場校の中学生が、発表を聴きましたが同世代の発表者の考えや意見に熱心に聞き入っていました。

## ◆発表内容について

中学校代表の26名の発表内容は、家庭、学校生活、社会(地域活動)、身の回りや友だちとの関わりをテーマにしたものが15名、社会や世界に向けての意見、未来への希望や提案などが8名、テレビや新聞などで報道されている少年の問題行動、大人や社会のさまざまな出来事に対する意見や感想、提言が3名でした。

会場風景



## ◆審査結果

### 最優秀賞

主 題	学 校 名	学 年	氏 名
○ありがとうの気持ちを込めて	鹿沼市立東中学校	3年	渡邊 良太さん
○住みよい世界を目指して	鹿沼市立加蘇中学校	3年	田代真由子さん
○無縁社会からの脱出	鹿沼市立板荷中学校	3年	大貫 純花さん

## ◆少年の主張発表を聴いて（感想）

どの人の内容も、とてもよく考えさせられるものでした。修学旅行での出来事や、家族のこと、自分の夢などそれぞれ自分の言いたいことを、気持ちを込めて話していたので、その想いがこちらまでひしひしと伝わってきました。（生徒）

僕が一番印象に残ったのは、最優秀賞をもらった鹿沼東中の生徒の発表です。障害をもっている弟についての内容だったのですが、その人は自分の弟の笑顔が大好きだと言っていました。障害をもっている、自分の大切な弟だと言っていました。こんなにも優しく弟思いなお兄ちゃんがいたら、弟もきっとお兄ちゃんのことをとても好きなのだろうと思ひ、心が温まりました。（生徒）

日常感じていることについて・将来どのような大人になりたいか・困難にくじけずに前向きに生きようとする力強い心の訴え・相手を思いやり手を差し伸べる勇氣ある行動などの発表は学校代表にふさわしく質の高い内容で、誇りと自信に満ちあふれた発表でした。一人ひとりの発表を聴き、中学2年生の息子をもつ母親として大きな感銘を受けました。聴衆の前で、会場全体を見渡しながら語りかける発表は、とても貴重な経験となり、自分自身を大きく成長させたことでしょう。立派な主張発表でした。（PTA）

### 表 彰 式



### 発表を終えての記念写真

